

# 日本財団 ボラセン

THE NIPPON FOUNDATION  
VOLUNTEER CENTER

ANNUAL REPORT  
2024

## 日本財団ボランティアセンター 活動の記録

2024年4月

「大学生のための  
ボランティアEXPO」開催

学生とボランティア団体のマッチングイベント。2023年に  
続き、2回目の開催は関西を中心に活動する21団体と、  
学生74人が参加



ボランティア  
EXPO

6月

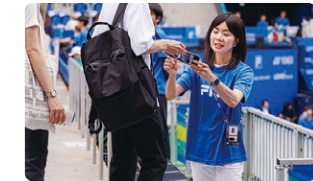
「第一回東京2020ボラ  
ンティア・コミュニティ・  
バーチャル・イベント」の  
開催に協力

東京2020オリンピック・パラリン  
ピックのボランティアを対象にした  
IOC主催オンラインイベントの開催  
に協力し、大会のレガシーの継承に  
貢献

9月

木下グループジャパンオー  
ブンテニスチャンピオン  
シックス2024  
運営ボランティア

世界トップ選手が参加する国際テニ  
ス大会。のべ798人のボランティア  
が活動



3月

連絡協議会  
「日本財団災害ボランティ  
アトレーニングセンター  
ネットワーク(VTCネット  
ワーク)」設立

技術系災害ボランティアの普及・発展  
を目的に設立



◀ 詳細は  
こちら

12月

ぼ活!会員数が  
4万人突破



5月

大阪府松原市と「ボラン  
ティア活動推進に関する  
連携協定」を締結

日本財団ボラセンと自治体との  
協定は、2件目



8月

オランウータンの森  
再生プロジェクト  
第3陣・第4陣を派遣

2025年2月～3月には、第5陣・第  
6陣を派遣し、合計約1万本を植樹



ORANGUTAN'S  
FOREST  
RESTORATION  
PROJECT

10月

愛知・名古屋アジア・  
アジアパラ競技大会  
組織委員会と協定を締結

2026年に開催される大会に向け  
て、ボランティア運営に協力



2025年2月

旅するボランティア



鹿児島県・与論島、  
沖縄県・久米島で実施



旅する  
ボランティア

◀ 詳細はこちら

ボ学 年間開催数が50回を超える



2024年度は、合計56回 7,829  
人が受講



ボ学

◀ 詳細はこちら



ふくらめ、ふくらめ、可能性。

ぼ活!

ぼ活!サイトは  
こちらから



2024年度実績 (2025年3月31日現在)

ぼ活! 登録者数 42,325人

ボランティア活動

157回  
のべ  
4,543人派遣

セミナー/イベント

175回  
のべ  
21,319人参加

団体連携・ネットワーク

ボランティアに関する大学連携

連携協定締結 115校  
連携事業数 31校 79事業

スポーツボランティアネットワーク

参加団体 84団体

VTCネットワーク

参加団体 3団体

団体概要

公益財団法人日本財団ボランティアセンター  
東京都港区虎ノ門1-11-2 日本財団第二ビル4階  
TEL: 03-6206-1529  
E-mail: info@volacen.jp  
日本財団ボランティアセンター公式サイト  
https://www.volacen.jp/



公開資料については、  
こちらでご確認いただけます。



https://www.volacen.jp/about/public/

VISION

私たちは、日本に新しいボランティアカルチャーをつくります。



# アジアで最も若い国 東ティモール支援プロジェクト

## 教育・スポーツ・生活支援の 3つのプロジェクトを実施

2002年に独立したアジアで最も新しい国、東ティモール。独立闘争の影響により社会インフラの整備が大きく遅れ、今もなお、貧困や教育格差、医療体制の不備など、さまざまな社会課題を抱えています。

日本財団ボラセンでは、東ティモールの子どもたちがより良い未来を描けるよう、「教育」「スポーツ」「生活支援」の3つのプロジェクトを実施しました。



## 子どもと未来を創るソーシャルアクションキャンプ in 東ティモール 教育

東ティモールは人口の約4割が15歳以下、平均年齢は20.8歳と、世界でも屈指の若年人口国家です。しかし、子どもの急増に対し、学校や教員の数が追いつかず、十分な教育機会が確保されていないのが現状です。そこで日本財団ボラセンは、学生ボランティアを派遣し、首都ディリの大統領府にあるフリースクールで算数、工作、スポーツなどの授業を実施。学生たちは自身の得意分野を活かし、子どもたちとの交流を通じて学びと笑顔を届けました。

また、JICAや国連ボランティア計画などの国際機関を訪問し、現地で活動する海外ボランティアとの交流も行いました。

参加者の声

井上 陽樹さん

子どもと未来を創る ソーシャルアクションキャンプ in 東ティモール 第1陣 参加者

東ティモールの子どもたちと接する中で、「相手を一括りにせず、個々の違いを大切にすること」の大切さを実感しました。また、教える・教えられるという固定的な関係ではなく、互いに学び合うボランティアの在り方を学びました。想像力をもって、相手の思いに寄り添う姿勢を大切にしていきたいです。



| グループ名 | 派遣期間     | 参加人数 |
|-------|----------|------|
| 第1陣   | 10/13～22 | 9人   |
| 第2陣   | 11/3～12  | 10人  |



## 夢をつなぐサッカープロジェクト in 東ティモール スポーツ

このプロジェクトは、2024年7月に行われたラモス=ホルタ大統領と日本財団ボラセン山脇康会長の会談をきっかけに始まりました。東ティモールで最も人気のある「サッカー」を通じて、子どもたちの夢を後押ししたいという大統領の思いを受けて実現したものです。



木場昌雄さん

Jリーグ7クラブから寄付を受けたサッカー用具446点を東ティモール国内で配布。サッカー教室では、元プロ選手の木場昌雄さんがコーチとして参加し、幼児から小学生まで110人の子どもたちが指導を受けました。

サッカー用具配布

ボール、ユニフォーム、ピブスなど446点のサッカー用具を学校やサッカークラブを通じて子どもたちに配布

サッカー教室の開催

幼児～小学生 110人が参加

## 約8,000点の衣類を 東ティモール国内で配布 生活支援

日本のアパレル企業から寄付された約8,000点の衣類を東ティモールへ輸送し、大統領府を通じて現地の人々に配布しました。

2024年7月18日には、山脇会長が首都ディリを訪問し、在東ティモール日本国大使館の木村徹也大使とともにラモス=ホルタ大統領と会談。支援に対する感謝の言葉をいただくとともに、大統領府の呼びかけで集まった女性や子どもたちに、山脇会長と木村大使より衣類が贈られました。



(左から) 木村徹也大使、ラモス=ホルタ大統領、山脇康会長

プロジェクトの様子は、日本財団ボラセン公式YouTubeチャンネルでも紹介しています。



子どもと未来を創る  
ソーシャルアクション  
キャンプ  
in 東ティモール



夢をつなぐ  
サッカープロジェクト  
in 東ティモール

# 東京2025デフリンピックに向けて、 デフスポーツを支えるボランティアの輪、広がる

2025年11月に開催される「東京2025デフリンピック」に向けた気運醸成に取り組みました。ボランティア派遣では、3競技4大会でぼ活!ボランティアが運営をサポート。さらに、手話やデフリンピックについて学ぶセミナーや、応援・交流イベントを多数開催し、のべ3,041人が参加しました。

## ボランティア派遣

デフバレーボール、デフビーチバレーボール、デフ陸上競技の3競技の大会でボランティアを派遣。日本で初めて開催されたデフバレーボールの国際大会「デフバレーボール世界選手権2024 沖縄豊見城大会」では、39人のボランティアが沖縄県外から参加し、世界大会の大舞台で、コートに落ちる汗を拭き取る「モッパ」や、コート外に出たボールを回収して円滑にゲームを進行させる「ボールレトリバー」などの役割で大会をサポートしました。

| 大会名                        | 派遣期間            | 派遣人数 |
|----------------------------|-----------------|------|
| デフバレーボール 世界選手権2024 沖縄豊見城大会 | 2024/6/19～7/1   | 39人  |
| 全日本デフビーチバレーボール選手権2024      | 2024/10/12      | 91人  |
| 第21回日本デフ陸上競技選手権大会          | 2024/11/30～12/1 | 81人  |
| 第26回ジャパンデフバレーボールカップ川崎大会    | 2025/2/7～9      | 73人  |



参加者の声

山田 紗愛さん

デフバレーボール 世界選手権2024 沖縄豊見城大会 参加者

手話がとても身近な存在になりました。一緒に活動をした方々には、耳が聞こえる聞こえないに関わらず手話を使いこなしている方が多くいて、もっと多くの人が手話を使えるようになれば、より多くの人とコミュニケーションが取れるんだと実感しました。



詳細はこちら



## セミナー開催

初心者から経験者まで様々なレベルに合わせて楽しみながら手話を学ぶ「教えて!いちろう先生」シリーズに加え、国際手話や世界各国の手話を学ぶ新セミナーも開催しました。



| セミナー名                                  | 開催回数 | 受講者  |
|----------------------------------------|------|------|
| 教えて!いちろう先生「はじめての手話」                    | 6回   | 364人 |
| 教えて!いちろう先生 2nd stage「手話Cafe」           | 2回   | 161人 |
| 教えて!いちろう先生 2nd stage「みんなで話そう!手話スポーツバー」 | 3回   | 225人 |
| はじめての国際手話 ～来年開催!デフリンピック～               | 1回   | 560人 |
| 国際手話道場 ～デフリンピックに向けて～                   | 4回   | 142人 |

参加者の声

塚田 麻衣子さん

国際手話道場～デフリンピックに向けて～ 参加者



手話を教えてもらうだけでなく、コミュニケーションをとる上で、どんなところに気をつけたら良いか、忘れがちな部分を改めて教えてもらいました。また、様々な国の挨拶を知ることができ、選手たちとの交流もとても有意義でした。

## イベント開催

デフスポーツの魅力をより身近に感じてもらうために、オンラインイベントや応援・交流会を開催しました。現地で観戦や、デフアスリートやボランティア仲間との交流を通じて、デフリンピックやデフスポーツの理解促進や、デフリンピックのボランティア活動の楽しみ方を発信しました。



| イベント名                                            | 開催日        | 参加人数 |
|--------------------------------------------------|------------|------|
| デフスポーツ国際大会で戦う日本代表を応援しよう!                         | 2024/5/29  | 223人 |
| 開催1年前!特別企画～デフリンピックとボランティア～                       | 2024/11/25 | 700人 |
| ぼ活!チームで応援しよう<br>～全日本デフビーチバレーボール選手権2024 応援・交流会～   | 2024/10/12 | 55人  |
| ぼ活!チームで応援しよう<br>～第21回日本デフ陸上競技選手権大会 応援・交流会～       | 2024/12/1  | 66人  |
| ぼ活!チームで応援しよう<br>～第26回ジャパンデフバレーボールカップ川崎大会 応援・交流会～ | 2025/2/9   | 61人  |

「応援交流会」  
参加者の感想

「アスリートの方々の生の気持ちを知ることができて嬉しかったです。また、初対面のボランティア仲間とすぐに打ち解け、たくさんの情報交換ができました」

「デフスポーツのアスリートと直接交流できたことで、また応援したり、ボランティアに参加したりしたいと思います」

「参加者の中に手話のできる人が多くて、驚きました。私もデフリンピックに向けてもっと手話を勉強したいと思いました」

# 全16プログラムに530人が参加 カンファレンス&アワードセレモニー 「Volunteer's Summit 2025」

2025年3月8日、東京都文京区の中央大学 茗荷谷キャンパスにて、年に一度のボランティアの祭典「Volunteer's Summit 2025」を開催。3回目の開催で、過去最多となる530人が来場し、世代や分野を越えて、多様なボランティアがつながり合う貴重な一日となりました。

当日は、災害支援・スポーツ・プロボノなど多彩な分野をテーマにしたトークセッション、ボランティアのマッチングイベント「ボランティアEXPO」、ボランティアによるスピーチコンテスト「V-1～ボランティア共感コンテスト～」など、全16の多様なプログラムを実施しました。



## Volunteer's Summit 2025

## ボランティア元年から30年 日本におけるボランティアの普及と発展



メインセッションでは、「ボランティア元年から30年 日本におけるボランティアの普及と発展」をテーマに、震災・福祉・スポーツそれぞれの分野で実践を続ける識者3名と、日本財団ボラセン参与・二宮雅也氏が、「ボランティア元年」と呼ばれる1995年の阪神・淡路大震災から30年間の日本社会のボランティア文化の歩みとこれからの可能性について議論を交わしました。

詳細はこちら



## ボランティアを称えるアワード 「ぼ活! MARCH AWARD 2025」



多様なやさしい社会づくりに貢献したボランティアや団体を称える「ぼ活! MARCH AWARD 2025」。今回は3団体と20人の個人が受賞し、Volunteer's Summit 2025のステージで表彰式を実施しました。

受賞者コメント

我妻 清和 さん | DRT JAPAN YAMAGATA 代表

このような賞をいただき、団体を代表して心から感謝申し上げます。これもひとえに私たちと関わってくださった皆様の支えと仲間たちの力があってのものだと感謝いたします。災害を止めることはできませんが、災害による被害を軽減するための「備え」を伝える活動や有事の対応能力向上に励み、災害対応の一助となるよう邁進してまいります。



団体表彰 受賞団体

DRT JAPAN YAMAGATA  
一般社団法人日本デフバレーボール協会  
公益社団法人日本マレーシア協会

個人表彰 受賞者

ぼ活! ボランティア 20人

詳細はこちら



# 令和6年能登半島地震・奥能登豪雨など 災害ボランティアを全国の被災地へ派遣

## 石川県珠洲市・輪島市、山形県酒田市などにのべ139人を派遣！

2024年4月から2025年3月にかけても、全国各地で自然災害が相次いで発生しました。

日本財団ボラセンでは、令和6年能登半島地震(1月)、山形県北部豪雨(7月)、奥能登豪雨(9月)に対し、合計10回・のべ139人の災害ボランティアを派遣。被災家屋の片付けや瓦礫撤去など、被災地の早期復旧に向けた支援活動を行いました。



派遣実績

|                | グループ名 | 派遣期間          | 参加人数 | 活動場所   |
|----------------|-------|---------------|------|--------|
| 令和6年<br>能登半島地震 | 第8陣   | 2024/4/10～15  | 6人   | 石川県珠洲市 |
|                | 第9陣   | 2024/4/29～5/3 | 30人  | 石川県珠洲市 |
|                | 第10陣  | 2024/6/6～9    | 10人  | 石川県珠洲市 |
| 山形県北部豪雨        | 第1陣   | 2024/9/14～16  | 9人   | 山形県酒田市 |
|                | 第2陣   | 2024/9/27～29  | 10人  | 山形県酒田市 |
| 奥能登豪雨          | 第1陣   | 2024/10/25～27 | 15人  | 石川県輪島市 |
|                | 第2陣   | 2024/11/15～17 | 17人  | 石川県輪島市 |
|                | 第3陣   | 2024/11/22～24 | 16人  | 石川県輪島市 |
|                | 第4陣   | 2024/12/6～8   | 16人  | 石川県輪島市 |
|                | 第5陣   | 2025/1/24～26  | 10人  | 石川県輪島市 |

## 珠洲に希望を、音楽を！ 災害ボランティアが地元高校 吹奏楽部の定期演奏会をサポート

能登半島地震災害ボランティア派遣 第10陣では、石川県立飯田高等学校吹奏楽部(石川県珠洲市)の定期演奏会に出演しました。

この出演は、倒壊した家屋から、災害ボランティアが部員の楽器を取り出したことが縁となり、震災の影響でいつもの会場が使用できず、部員も減ってしまった吹奏楽部の助っ人を買ってでました。

演奏会のラストを飾ったのは、能登を舞台にしたNHK連続テレビ小説「まれ」の主題歌『希空～まれぞら～』。未来への希望を込めて、8人の吹奏楽部員と、日本財団ボラセンや他団体から集まった約50人のボランティアが共に演奏・合唱しました。

地元住民や来場者のあたたかな拍手に包まれたこの演奏会は、ボランティアにとっても忘れられない経験となりました。



参加者の声

小林 真末さん

能登半島地震災害ボランティア派遣  
第10陣 参加者

生徒やボランティアのみなさんとの演奏は、とても楽しく素敵な経験になりました。多くの方に聴いて喜んでもらえたこと、音楽を通した人とのつながりに、「音楽っていいな」と実感するとともに、被災地支援の形は多様であると感じました。これからも能登の復興のために自分ができることを継続していきたいです。



## 日本初、民間による災害支援拠点&養成所 「日本財団災害ボランティアトレーニングセンター(VTC)」をオープン

2025年3月7日、茨城県つくば市に「日本財団災害ボランティアトレーニングセンター(VTC)」を開所しました。

VTCは、民間初・国内最大級の災害支援トレーニング施設です。災害現場での活動に必要な技術系ボランティアを育成する拠点として、重機操縦の訓練フィールドや座学用の研修棟、ショベルカーやダンプカーなど16台の重機と資機材を配備しています。今後は、災害支援に関心を持つ個人が、重機の基本操作から実践的な災害対応スキルまでを習得できる研修や講習を定期的に開催。一定以上のスキルを有するボランティアが、災害時に重機とともに出動し、連携団体への重機・資機材の貸出も行っていきます。

詳細はこちら



# 15th ANNIVERSARY

## 日本財団ボランティアセンターのこれまで

### 日本財団学生ボランティアセンター



2010年設立。通称Gakuvo。大学生のボランティア活動を支援するため、全国の大学と協定を締結し事業を展開。2011年の東日本大震災以後は、全国各地の被災地に学生ボランティアを派遣。2021年に「日本財団ボランティアセンター」に名称変更。

2021年  
名称変更

### 日本財団ボランティアセンター



2022年 一部事業を譲渡

2023年 一部事業を譲渡

### 日本財団ボランティアサポートセンター



2017年設立。通称ボラサポ。東京オリンピック・パラリンピック組織委員会や開催自治体と連携・協力し、東京2020大会のボランティア育成に携わる。大会終了後は、「ぼ活!」サイトをオープン。2022年3月解散。

### 日本スポーツボランティアネットワーク



2012年設立。通称JSVN。スポーツボランティア育成事業を立ち上げ、研修会受講者数は3万人超。ラグビーワールドカップ2019™日本大会のボランティア育成にも携わった。2023年3月解散。

## ボランティアの育成・運営に携わった主な国際大会・イベント

- ラグビーワールドカップ2019™日本大会
- 東京2020オリンピック・パラリンピック
- 2023 WORLD BASEBALL CLASSIC™(WBC)
- 東京2025世界陸上
- 愛知・名古屋2026アジア・アジアパラ



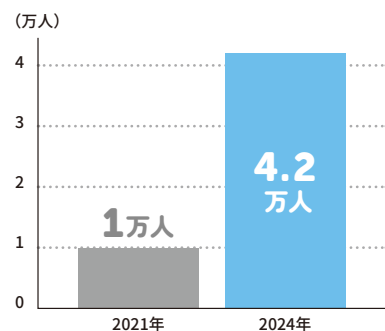
## 日本最大級のボランティアプラットフォームサイト ぼ活!



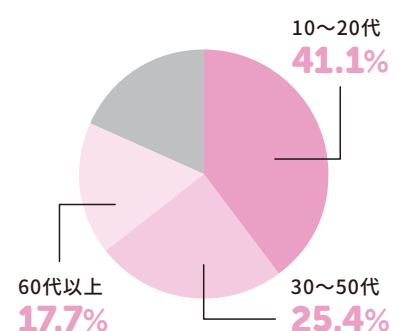
2021年10月にオープンした「ぼ活!」は、ボランティア募集情報やボランティア関連のセミナー・イベント情報を紹介する日本最大級のボランティアプラットフォームサイトです。



### ぼ活! 会員数



### 世代別会員数



## 連携団体の紹介

### 連携する団体数

協定の締結、  
連絡協議会の参加団体

2021年  
102  
団体



(大学)



2024年  
209  
団体

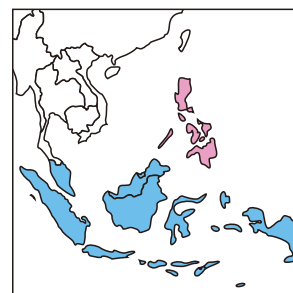


(大学、スポーツ団体、災害NPO、自治体など)



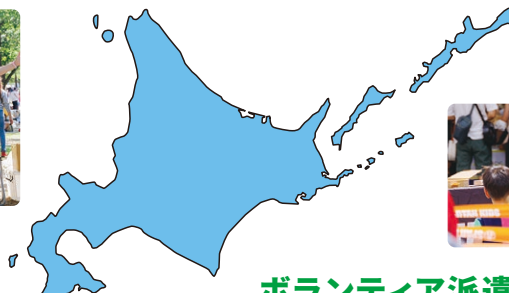
## ボランティア派遣人数 (2011年～2024年)

25,335人



## ボランティア派遣先

国内30都道府県 | 海外6ヵ国

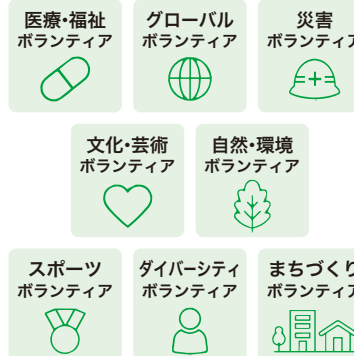


## ボランティア派遣分野

～2021年 2分野



2024年 8分野



## セミナー・イベント

参加者数

49,702人

(2017年～2024年)



## 主な海外ボランティア派遣

- 2012年 台風ハイエン災害ボランティア派遣(フィリピン)
- 2014年 グローバル・リーダーシップ・プログラム(インドネシア)
- 2022年 ウクライナ避難民支援(ポーランド、オーストリア)
- 2024年 熱帯雨林再生のための植林プロジェクト(マレーシア)
- 2024年 教育支援プログラム(東ティモール)



## 災害ボランティアを派遣した主な災害

- 2011年 東日本大震災
- 2014年 広島土砂災害
- 2016年 熊本地震
- 2018年 西日本豪雨
- 2024年 能登半島地震



## 災害ボランティア派遣人数

15,350人 (2011年～2024年)

## 日本財団ボランティアセンターに、これから期待すること



西尾 雄志 (Gakuvo 初代センター長、日本財団ボランティアセンター 理事、近畿大学 総合社会学部 総合社会学科 教授)

ボランティアの魅力や力を知る若者を応援し、育成し、そして社会へと送り出す。その人材が成長し、社会で活躍するようになれば、10年後、20年後、世の中は必ず、変わっていく、これが2010年に日本財団学生ボランティアセンター(当時)を立ち上げたころの思いでした。それから15年が経ち、その兆しはすでに見えています。これからはその兆しをより明確にすることが求められるでしょう。まずは卒業生たちのネットワークづくりからでしょうか。日本財団ボランティアセンターの挑戦はまだまだ続いています。



二宮 雅也 (日本財団ボランティアセンター 参与、文教大学 人間科学部 人間科学科 教授。Gakuvo、JSVN、ボラサポ 3団体で役員等を歴任)

2000年のNPO法施行以降、全国各地にボランティア活動を支える中間支援組織が生まれてきました。しかし、その多くは特定の地域や分野にとどまっており、ネットワーク化の難しさが常に課題でした。そうした中で、日本財団ボランティアセンターは、その枠を超えて、全国の中間支援組織とつながりながら、様々な分野や地域を横断するボランティアマッチングの仕組みを築いてきました。東京2020オリンピック・パラリンピックでは研修教材の作成支援やレガシーの継承にも取り組みました。これからは、ボランティアの潜在層の掘り起こし、ボランティア教育、そして専門ボランティアの育成といった取り組みのさらなる充実が、より一層求められていくことでしょう。